

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103271		
法人名	社会福祉法人 淳風福祉会		
事業所名	若宮園グループホーム		
所在地	岡山市南区箕島3566-1		
自己評価作成日	令和 2年 11月 30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3370103271-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3370103271-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース		
所在地	岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 2年 12月 8日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の流行の影響で、今までのようにご利用者を地域行事へお連れしたり、ご家族との外出が制限される事態になってしまい、終息がみえない中、長期間にわたってご利用者とご家族にご不便をおかけしている。特にご利用者が、寂しい思いをされていると感じる事があり、出来るだけ心穏やかに過ごして頂けるように、職員も感染症の防止対策を行いながら、日々寄り添い、模索しながらケアにあたっている。

職員自身もコロナ禍の中不安な思いはあるが、同一敷地内の主務者と連携をとりながら、正しい情報を共有し、協力体制を整えながら個々の職員の不安解消に努めている。職員同士もコミュニケーションをとりながら、経験年数にとらわれずにフォローしあえる関係性が出来ている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国や市から得た新型コロナウイルスに関する正しい知識や情報等を法人全体で共有し、現場で働く職員へいち早く伝えることで不安な気持ちを軽減すると共に、ストレスの負担を和らげている。また、コロナ禍の中、しっかりとした対策を講じながら看護学生や養成校の受入れを行っており、利用者と会話した内容をフィードバックしてもらうことで、より良いケアに繋げている。そして、利用者の身長や体重、疾患等をもとに法人の管理栄養士に相談したりアドバイスを貰ったりしながら、利用者の状態・状況に合った食事メニューが作成・提供されている。さらに、看護師や言語聴覚士等から気づきや意見を貰いながら人としての尊厳を大切に、また、利用者本位であることを意識しながら安定したサービスが提供できている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と基本方針をもとに、職員で意見を出し合い、実践目標を定め実践し、職員が目にしやすい位置に掲示を行っている。	玄関先及び情報共有ツール画面に理念を掲示し、職員がいつでも目に触れられる様に工夫している。また、法令遵守の場や新人研修の中で、理念や方針を共有・実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で例年のように地域行事への参加はできていないが、運営推進会議を通して地域とのつながりを維持できるように努めている。	地域の人からお祭りや行事等の開催中止のお知らせがあるなど、地域との繋がり・連携が保たれている。ボランティアの来所等は控えているが、看護学生や養成校の受入れは継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学生の福祉学習のお手伝いで、法人内の施設職員と協働し、学校に出向いて高齢者や認知症について、車椅子操作を指導しながら説明をさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で会議時間を短縮したり書面で開催したりしている。事業所の実情や感染症対策を報告し、委員の方から、ご意見や励ましを頂きサービスへとつなげている。	1度だけ1時間限定(会食なし)で開催したが、その後は書面会議に切り替えており、事業所で作成した資料等を送付し、意見等を募っている。出た意見等はPDFに変換し、情報共有ツールで共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの提供や手続きなどで不明な点があった場合は、市の担当へ電話を行い随時聞くようにしている。生活保護受給者の福祉事務所担当の方とも連携をとり、ご本人だけでなく家族へのサポートも行っている。	指定更新等で分からない事があれば、市担当者へ電話相談している。また、法人のコロナ対策委員長が保健所等と密に連絡を取り合っており、得た情報は情報共有ツール等を活用しながら共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを掲げて、職員全員で取り組んでいる。3か月に1回「身体的拘束適正化検討委員会」を開催し、拘束をしないケアについて見直しを行っている。年に2回法人内で開催している勉強会にも参加している。	3ヶ月に1回、管理者が資料を作り、身体拘束に関わる会議を行っている。また、日常的にニュースになった事を口頭で伝えたり、年2回法人開催の勉強会に参加したりして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で定期的に行っている勉強会に参加し、身体的虐待はもちろんの事、普段の声掛けなどが身体的虐待になっていないかを考えながらケアにあつたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で定期的開催している勉強会に参加し、理解を深めている。成年後見制度を利用のご利用者もおられ、必要に応じ関係者と連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、契約書などの資料を用いて分かり易い表現で行うようにしている。後日でも不明な点があった場合に気軽に質問ができるよう、良好な関係作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス対策で面会の頻度は少なくなっているが、ご家族の状況に応じて電話連絡をしたり、お便りに写真を添えて送ったりして信頼構築に努めている。ケアプランの見直し時に、必ず要望をご本人から聞くようにしている。	不定期ではあるが、利用者の普段の様子を写真に撮り、家族に送付したり、ケアプラン見直しの際、家族に連絡して意見等を聞き出したりしている。また、日常生活の中で利用者から聞き取った意見や要望をまとめて、ケアプラン等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課制度の年2回の個別面談に加え、日々のコミュニケーションで意見が出やすいような雰囲気作りを心掛け、出た意見はケアに反映するように努めている。	年2回、個別面談を行っている。その際、馴染んで仕事ができる様、個人の目標や特徴・能力などを確認・把握しながら意見や提案を聞き取り、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務分掌を得意分野と勘案して、1年に1回変更しながらスキルアップなどに繋げている。資格取得についてもサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響で外部の研修へ行く事が出来ていないが、オンラインを利用した研修については、管理者を中心に受講できるように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの管理者と、定期的な会議の開催やSNSなどで情報共有や相談を行っている。他の同業者ともネットワークをつくり、情報収集してケアの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前は必ずご本人とお会いして、話を聞きご利用者の理解に努めている。特に趣味や嗜好、得意な事を中心に伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にお困りごとや要望などをしっかり傾聴するようにしている。サービスやケアの内容について、不明な点があれば、いつでも聞きやすいように信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの受付時、相談時や事前面談時に、ご本人とご家族双方の思いや要望を確認し、適切なサービスについて説明を行いながら、必要があれば他の介護保険サービスについて分かり易く説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の家事(調理や洗濯たみなど)はできるだけご利用者中心でして頂き、得意な事を分業して行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響で面会や外出制限がある中で、ご家族と話し合いながらアクリル板越しの面会や、面会中止中は電話での連絡の仲介を行い、ご本人の安心に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス対策で外出や面会に制限があり、例年のように地域行事に参加して地域の馴染みの方やボランティアとの交流は現状は見合わせている。	コロナのため、馴染みの人との面会を中止し、馴染みの場への外出も控えている。以前利用していたデイサービスや通所の職員が遊びに来たり、様子を見に来てくれたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性や趣味嗜好などを考慮して、席の配置などを固定している。新しく入られたご利用者には、特に孤立しないように職員が仲介を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も良好な関係作りに努め、新型コロナウイルス対策を行ったうえで、可能な限り訪問に努め、ケアのアドバイスやご本人の思いの傾聴に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からコミュニケーションを重視し、ご本人の思いや要望を、言葉からだけでなく、表情や行動から読み取るように努めている。	利用者との関わりを増やし、利用者の状態・状況に合わせて暮らしの希望や意向を把握している。また、実習生から聞き取ることもある。困難な場合は、発語の端々や表情等から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、生活習慣や馴染みのある場所などの把握に努めている。その他利用していたサービス関係者からも、情報を頂きケアの参考にしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況などの把握が行いやすいように、時系列に沿った様式へ記録し、心身の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の担当職員と計画作成担当者だけでなく、医療連携をとっている看護師からも、ケアプラン作成時に意見を聞き介護計画に反映できるようにしている。	担当職員が日々モニタリングを行っており、法人の管理栄養士や看護師、言語聴覚士から意見やアドバイスを貰いながら、個々に沿ったプランを計画している。また、状態が変化した時(ADLの低下等)はその都度、見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌やケアプランのモニタリングから、ケアの経過をみて、必要があればケアの見直しや変更を行っている。ご利用者に変化がある時は申し送り簿などを活用して情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いを大切に、普段の関わりから要望を捉え、ご家族の協力も得ながら暮らしやすい環境作りの提案(仏壇設置など)や福祉サービス以外の情報収集を行い多角的にお支え出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で例年していた地域行事への参加は出来ていないが、地域資源の活用に向けて近隣のグループホームの管理者と情報共有を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者は、同一敷地内に配置されている協力医を主治医として希望し、緊急時に早期対応が出来る体制が整っている。専門医への受診はご家族の希望を聞きながら、必要時は職員が付き添いを行っている。	かかりつけ医が協力医であり、専門医への受診支援は家族と相談しながら対応している。また、併設施設の看護師と連携しており、24時間体制で適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護師と24時間体制で連携をとっている。ご利用者の日々の健康状態について、専用の申し送り簿や電話(内線、外線)等で報告を行い、適切な医療サービスの提供へと繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は出来るだけご利用者が安心して治療を受けられるように、認知症状を含めて病院関係者に情報提供を行い、治療中も早期退院に向けてご家族も交えて連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談と契約時には、提供できるサービス範囲について管理者より説明を行い、入居時は協力医、管理者とご本人、ご家族で面談を行い、重度化や終末期の対応できる範囲について説明を行っている。重度化や終末期の兆候があった時は、再度面談を行い、希望を伺いながら十分な説明を行い、今後のケアについて話し合いを行っている。	契約時、基本的に看取りは行っていない旨を伝え、重度化した場合の同意書を交わしている。また、重度化した場合の対応に関しては、入居初日に理事長から利用者・家族に説明している。初めての看取り支援では、事前に資料を回覧し、全職員及び家族に説明するなど、方針を共有し実践している。また、看取り支援後、個々に携わった職員へ意見等を聞き取るなど、今後の支援に役立つスキルを身に付けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同一敷地内で開催されている勉強会に定期的に参加し、演習などを行いながら知識を深めている。事故発生や急変時のマニュアルは、フローチャート式にした物を作成し、分かり易い位置に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年に2回夜間想定で、火災、地震時の避難訓練を行っており、職員が参加している。災害時は隣接している施設職員との協力体制があり、備蓄も2日分以上の確保ができています。	夜間想定のもと、年2回法人全体で避難訓練を行っているが、今年度はコロナの影響もあり、外部の人を呼ばず書面開催としている。また、利用者も参加して災害を想定した非常食訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者へのお声掛けは、人格を尊重し、個々に合わせて馴染みのある表現や分かり易い表現を心掛けている。年2回ある法人内の接遇に関する勉強会に参加し、プライバシー配慮について学んでいる。	入室時のノックや排便量のチェック等、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮した対応をしている。また、気が落ち着かない利用者に対して励ましたり、人格や個々の生活歴等を尊重した言葉かけに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からご利用者との信頼関係作りを心がけ、希望を言いやすい雰囲気作りに努めている。言葉だけでなく表情や行動から要望などを読み取るようにし、認知症があっても自己決定ができるよう職員がサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	しっかり睡眠が確保できるように、日中は体操やレクリエーション、工作等を提案しているが、無理強いないように気を付けている。穏やかに生活が送れるように、個々に合わせた生活リズム作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理美容が、月1回来るので、希望者はカット、パーマ、毛染めをしている。服はご本人の好みの物を着て頂けるように、必要な方には介助をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はご利用者に実際に包丁を持って参加して頂いている。得意分野を活かし、味見や盛り付け、食器洗いなどをお願いしており、参加が困難でも電磁調理器を使用し目の前で調理をする事で、視覚、嗅覚から食事を楽しめるように工夫している。	利用者と一緒に盛り付けしたり、食器洗いや味見をしてもらったりする等、一人ひとりの残存能力を活かした支援を行っている。また、季節のおやつを提供したり、職員が持参したゆずを利用者と一緒に切ったり絞ったりして「ゆず茶」を作るなど、食事が楽しくなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一敷地内の施設にいる管理栄養士にアドバイスを受けながら、必要な水分、カロリーを考えながら、病歴をふまえ、できるだけ好みの物を飲食して頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員毎食後にお部屋にある洗面所で口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科往診を行い、ブラッシングのアドバイスをうけて介助している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけトイレでの排泄を促しており、羞恥心に配慮しながら、個々に合わせて失禁する前にトイレにお誘いするようにしている。	利用者の排泄パターンに合わせて、トイレ誘導している。また、パット交換を自分で行う利用者には、個々の力を活かし、自立した排泄支援が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	羞恥心に配慮して、排便の有無を確認しながら、排便コントロールを行っている。十分な水分量を工夫しながら提供し、身体も動かせるような時間も作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として、ご本人の気分などに応じ、時間や曜日にとらわれずに柔軟に対応をしている。入浴担当以外の職員とも協働し、ご本人の良いタイミングを見計らって入浴できるようにしている。	週2回、午前入浴を基本とし、個々の状態・状況に合わせて支援している。時間や曜日の変更も可能であり、一対一での入浴支援に取り組んでいる。また、入浴後の服選びなど、入浴が楽しくなるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活歴や生活リズムを大切に、安心して眠れるように支援している。就寝時間や起床時間も個々に合わせて設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が服用している薬の効能、副作用について調べて、職員間で情報を共有している。薬や容量が変更になった時は、小まめに記録をとるようにして、経過観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の得意分野や希望をお聞きして、食器洗いやぬり絵などの工作作業をご利用者主導で行えるように、職員が補助するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス対策で、ほぼ外出は出来ないが、敷地内に移動バン屋が来た時は、希望者には実際に見て頂きながら購入できるように支援している。	コロナ対策の一環として日常的な外出支援は控えているが、移動バン屋さんでパンを購入したり、居室から季節の移り変わりを一緒に見たりするなど、コロナの影響がない範囲で支援している。	近隣散歩や外気浴等、身近な場所に出る機会が増える取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、トラブル防止の為、施設内では持たないようにしている。新型コロナウイルス対策で外出する機会はなかったが、外出時にはご利用者に支払いをして頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの場合は、充電の管理や着信などがあつた時に、一緒に操作を行い折り返し連絡が出来るように支援している。所持していない方でも、希望時は施設の電話を使用して、ご家族と話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールと廊下には、ご利用者の方と作成したぬり絵や壁紙を、1か月ごとに貼りかえるようにしている。あわせてホールには、目につくところに生花を飾るようして季節を感じられるように工夫している。	共有フロアや玄関に季節の花を飾ることで、室内にいても季節が感じられるように工夫している。また、事業所内は綺麗に整理整頓されており、コロナ対策も万全である。そして、車椅子等が自由に安全に通れる動線も確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのお席は、気の合う者同士で過ごす事ができるように固定しているが、ご利用者同士の気分をみながら、さりげなく時間を区切ってホールの利用を促す事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人やご家族の相談をうけながら、今まで使いなれた家具などを持ち込んで頂けるようお願いしている。入居後でも、ご本人の要望から仏壇を設置した例もある。	ひ孫が書いた習字作品や家族写真、仏壇等が持ち込まれており、個々に馴染み深い空間となっている。また、常に換気しており、安全に配慮した環境作りが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の心身の状況を考え、必要であれば福祉機器の導入を行っている。事故防止でセンサーコールマットを使用し、安全に施設生活を送れるような環境作りに努めている。		